

世界の若者 山形奮闘記

～海外出身の山大卒業生～

第5回

私の目を覚ましてくれた日本

スズキハイテック株式会社 Daniel Mayta



日本に来て、約2年8カ月が経った。留学生として山形大学に入学した最初の頃は、家族や母国のことが恋しく、言葉の障害や文化の違いから不安を強く感じていた。そんな状況下ではあったが、日本に対して好奇心を持ち、とにかくさまざまな物事に挑戦したいと思った。日本の文化や人の考え方を理解するために積極的に地域の人々とのさまざまな地域交流活動のイベントに参加するようにして、習慣、言葉や文化等を学んできた。そこで出会えた人々とのつながりから、不安の気持ちはなくなってきて、少しずつ日本社会に溶け込むことができた。

私の出身は地球の反対側に位置する南米のボリビアである。留学、就職を経験する中で日本に惹かれたことについて触れたいと思う。

日本での生活において最も惹かれたのは、住みやすさである。私の母国では四季というものがなく、日本のように春夏秋冬、明瞭とした四季の移ろいは美しく新鮮に映った。

また、交通機関をはじめとして、きちんと時間を守るという規則正しさに非常に住みやすさを感じた。規則を守ることで皆が気持ちよく過ごせるよう気配りができる日本人は、とてもすばらしい人たちだと思う。私が今まで出会った日本人たちは相手を思いやる気持ちを持っていて、一緒に助け合っていこうとする印象が強い。

職場見学やインターンシップを経験し、専門的・実践的な知識や技術を学んだ。職場の雰囲気良さ、社員を育てるための研修を行うなど人材育成

にも力を入れている熱心さから、自分も日本で働きたいと思い就職を希望した。

入社してから、日本人がどのように働いているかを知り、驚いた。日本人は、母国では見たことがないほど真面目で情熱を持って働いている。協調性が高く、効率よく仕事をしながら、何事も一生懸命で責任を持って仕事をする。最初の頃、自分ができなかった仕事を同僚の日本人が親切に教えてくれたおかげで、短い時間の間にたくさんできるようになっていった。

高い技術力と人を支える力が会社を成長させるために必要だと感じた。仕事の成果を上げるだけでなく、社員の能力を開発し、現場を鍛える改善活動を行うことで、さらに自分自身の成長も遂げる機会になると、働いてみて強く感じている。

日本は、私の目を覚ましてくれた国である。留学がきっかけとなり、自分の能力を発見することができた。これからも、日本は私にいろいろな魅力を気づかせながら、人生に有益なものを与えてくれると信じている。将来は、ビジネスと実践的な技術を備えた人材として、グローバルに活躍したい。

Daniel Mayta (ダニエル・マイタ)

ラパス市ボリビア多民族国出身。

サンアンドレス大学卒業後、山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学博士前期課程修了。

2015年10月スズキハイテック株式会社入社。